

経専学園介護職員初任者研修 情報公開

| | | |
|--------|----------------------|---|
| 研修機関情報 | 法人情報 | <ul style="list-style-type: none"> ●学校法人 経専学園 〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 Tel:011-824-1000 ●理事長 倉田 恵 |
| | 研修機関情報 | <ul style="list-style-type: none"> ●理念 経専学園は様々な個性を尊重し、経専学園ならではの質の高い実践的職業教育を通じて、社会に対する思いを持った、現場力の高い人を輩出することで地域・社会の発展に貢献します。 |
| | 研修実施場所 | <ul style="list-style-type: none"> ●経専北海道保育専門学校 〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目 Tel:011-812-9626 ●経専医療事務薬業専門学校 〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 Tel:011-837-0100 |
| 研修事業情報 | 研修の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ● 対象：本学園在校生 ● 研修のスケジュール (研修期間8か月、15日間程度、90.5時間) ● 定員（集合研修、実習ともに20名）、指導者数8名 ● 研修受講までの流れ：募集要項 ● 費用：35,400円（税込） ● 特徴：添付2号様式 |
| | 課程責任者 | <ul style="list-style-type: none"> ● 課程編成責任者 経専北海道保育専門学校 部長 鈴木 朗 |
| | 研修カリキュラム (通信) | <ul style="list-style-type: none"> ● 科目別シラバス：添付2号様式 別紙1 ● 科目別時間数：添付2号様式 別紙1 ● 科目別担当教官名：様式4号様式 ● 科目別特徴：添付2号様式 別紙1 演習の場合は、実技内容・備品、指導体制 ● 科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間 添付2号様式 別紙1 |

| | | |
|-------------|--|---|
| | <p>修了評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題 添付 8 号様式 ● 修了評価の方法、評価者、再履修等の基準 添付 8 号様式、フローチャート |
| | <p>実習施設 (実習を行う場合)</p> | <p>なし</p> |
| <p>講師情報</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 名前 ● 略歴、現職、資格、担当科目 <p>添付 4 号様式</p> | |
| <p>実績情報</p> | <p>平成 28 年度申請のためなし</p> | |
| <p>連絡先等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 申し込み・資料請求先 <p>学校法人 経専学園 経専北海道保育専門学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法人及び事業所の苦情対応者 <p>鈴木 朗 役職：部長 連絡先：経専北海道保育専門学校 TEL：011-812-9626 MAIL suzuki@keisen-g.ac.jp</p> | |

経専学園介護職員初任者研修（通信）学則

（研修の目的）

第1条 本学園が運営する各専門学校に在籍する学生に対し、介護サービスの中核となる介護職員の養成を図り、超高齢社会への対応の一助とすることを目的とする。また、卒業後の幅広い進路選択を視野に入れながら、優れた知識・技術と人間性を兼ね備えた人材育成をすることにより、福祉の増進に寄与することを目的とする。

（研修の名称）

第2条 研修事業の名称は、次のとおりとする。

経専学園介護職員初任者研修

（研修の要旨）

第3条 研修に関するおもな内容は、次のとおりとする。

| 事業所の所在地 | 研修形態 | 修業年限 | 研修期間 | 定員（人） | 受講料（円） | 受講対象者 |
|---------|--------------|------|------|-------|---------|--------|
| 札幌市 | 通信 (平日昼間) | 8ヶ月 | 8ヶ月 | 20 | 30,000円 | 本学園在校生 |

(1) 受講料以外の費用として、テキスト代・交通費・昼食代等は、受講者負担とする。

(2) 研修会場は、本学園が運営する次の学校とし、募集の際、募集要項に明示する。

札幌市南区澄川4条4丁目 経専北海道保育専門学校

札幌市南区澄川3条6丁目 経専医療事務薬業専門学校

（受講手続）

第4条 受講手続は、次のとおりとする。

(1) 開講日1ヵ月前から募集し、指定の申込書の提出をもって受け付ける。開講日10日前に締め切ることとし、定員が10人に満たない場合は、研修を中止する場合がある。

(2) 受講決定後、指定期日までに受講料を振り込みまたは窓口で直接支払う。事前の申し出があった場合には、所定の手続きにより分割払いとすることができる。

なお、研修開始までに入金確認できない場合は受講を断る場合がある。

(3) 研修開始前に本学園の都合により研修を中止した場合に限り、受講料を返還する。

研修開始後は、理由の如何を問わず、受講料は返還しない。

（カリキュラム）

第5条 研修を修了するために履修しなければならないカリキュラムは、別紙1のとおりとする。

（科目の免除）

第6条 科目の免除については、これを認めない。

（主要テキスト）

第7条 使用教材は「介護職員初任者研修テキスト」全2巻（中央法規出版株式会社）とする。

(修了認定)

第8条 研修の修了認定は、次のとおりとする。

(1) 出欠の確認方法

授業開始前に、講師用出席簿により、出欠確認を行う。

(2) 成績の評価方法

(ア) 添削課題は、3回に分けて添削指導を行う。各回、A・B・C・D・再の5段階で評価し、D以上を合格とする。再の評価を受けた者は、合格点に達するまで、所定の課題の再提出を繰り返し返さなければならない。

(100点満点中、A=90点以上、B=89~80点、C=79~70点、D=69~60点、再=59点以下)

(イ) 筆記試験は、全科目の修了時に行う。100点満点中60点以上を合格とする。理解度の高い順にA・B・C・D・再の5段階で評価し、D以上を合格とする。再の評価を受けた者は、再試験を行い、評価基準に達するまで行う。

(A=90点以上、B=89~80点、C=79~70点、D=69~60点、再=59点以下)

(ウ) 介護技術の習得度は、カリキュラム「こころとからだのしくみと生活支援技術」の総合生活支援技術演習において、当該科目(項目)担当講師が評価する。評価基準は、到達目標(別紙1カリキュラム)に定める評価ポイントにそって授業で行った程度の技術を修得しているかを、次の3段階で評価する。

| 段階 | 到達すべき水準 |
|----|------------------------|
| A | 演習で行った程度の技術を総合的に修得している |
| B | 演習で行った程度の技術をほぼ修得している |
| C | 技術の習得に至っていない |

C段階の評価を受けた者は、到達目標に達するよう補講を行い、再評価する。

(3) 修了認定の方法

(ア) 添削課題のすべてに合格しなければならない。

(イ) 講義・演習の全日程を修了した者(補講対象者にあつては、該当する補講を受講した者)は、修了時に、カリキュラム時間数とは別に行う筆記試験(60分間)に合格しなければならない。

(ウ) 筆記試験の評価は、(2)-(イ)により行う。

(エ) 介護技術の習得度に関する評価は、(2)-(ウ)により行う。

(オ) 修了認定は、介護技術の習得度に関する講師の評価と筆記試験を行った上、修了認定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。

(追試験について)

第9条 追試験については、以下の通りとする。

(1) やむを得ない事由により筆記試験を受験できない場合は、試験開始までに、その旨を担当者へ届出または連絡しなければならない。

(2) 追試験を受けようとする者は、学生受付窓口において追試験申込用紙に必要事項を記載し追試験料400円を納入すると共に申込みを行い、追試験受験票を発行してもらわなければならない。

(再試験について)

第10条 再試験については、以下の通りとする。

- (1) 筆記試験(第8条)において再の評価を受けた場合は、再試験を受けることができる。
- (2) 再試験の受験を希望する者は、再の評価を受けた後、所定の期間内に学生受付窓口において、再試験申込書に必要事項を記載し、再試験400円を納入するとともに、申込みを行い、再試験受験票を発行しなければならない。

(補講の取扱い)

第11条 補講については、以下の通りとする。

- (1) 受講生がやむを得ず欠席等(遅刻・早退含む)した場合は、補講を行う。
- (2) 第8条(ウ)において、C段階の評価を受けた者は、到達目標に達するまで、補講を行う。
- (3) 補講実施については、修業年限内で、研修日程と別に補講日を設け、該当科目(項目)の補講を行う。
- (4) 補講を受講しようとする者は、学生受付窓口において補講申込み用紙に必要事項を記載し、1時間につき補講料3,000円を納入すると共に申込みを行い、補講受講票を発行してもらわなければならない。但し、補講申込み上限時数は10時間未満とする。

(修了証明書の交付)

第10条 第8条により修了を認定された者は、当学園において、別紙に定める修了証明書及び修了証明書(携帯用)を交付する。ただし、受講料が納入されていない場合には、納入確認後に交付する。

(退学規定)

第11条 退学規定は、次のとおりとする。

- (1) 受講生が退学しようとするときは、所定の退学届を提出すること。
- (2) 受講生が学園の定める諸規定を守らず、また次の行為のあったときは退学を命ずる。
 - (ア) 素行不良で改善の見込みがないと認められるとき
 - (イ) 学力劣等で修了の見込みがないと認められるとき
 - (ウ) 正当な理由がなくして出席が常でない者
 - (エ) 研修の秩序を乱している者
 - (オ) 受講料が納入されない場合

(講師)

第12条 研修を担当する講師は、添付3号様式のとおりとする。

(修了者の管理)

第13条 研修終了後の管理は、次のとおり行う。

- (1) 修了者は修了者台帳に記載し、修了名簿は永久保存するとともに、北海道が指定した様式に基づき、知事に報告する。
- (2) 修了証明書の紛失及び氏名変更等があった場合、修了者からの申し出により、事務窓口にて再交付を行う。再交付手数料として、各一通500円(税込)を徴収する。郵送を希望する場合の郵便料金は修了者の負担とする。また、本人確認ができる書類の提出を義務付ける。確認書類は、戸籍謄本、戸籍抄本、住民票、運転免許証、学生証等公的証明書により行う。

(その他)

第14条 受講に関するその他の留意事項は次のとおりとする。

(1) 学則の説明

開講オリエンテーション時に学則の説明を行う。なお、開講オリエンテーションに参加できない場合は、個別に説明する場合もある。また、事務窓口に閲覧用学則を設置する。

(2) 個人情報の取り扱い

受講により知り得た受講者の個人情報を、みだりに他人に知らせる、又は不当な目的に使用しない。

(3) 修業年限の延長

受講生が、病気や事故または災害等やむを得ない事情により所定の修業年限内に研修修了が困難と認められた場合は、1年6か月までの範囲内で延長することができる。ただし、受講生からの所定の申請があった場合に限る。

(施行細則)

第15条 この学則に必要な細則並びにこの学則に定めのない事項で必要があると認められるときは、当学園がこれを定める。

(附則)

この学則は、平成28年8月1日より施行する。

別紙

修了証明書：A4サイズ

| | | |
|---|------|---|
| | 第 | 号 |
| 修了証明書 | | |
| | 氏名 | |
| | 年月日生 | |
| 介護保険法施行令（平成十年政令第四百十二号）第三条 第一項第二号に掲げる研修の課程を修了したことを証明する。 | | |
| 年月日 | | |
| 学校法人経専学園 理事長 倉田 恵 印 | | |

修了証明書（携帯）：名刺サイズ

| | | |
|---|------|---|
| | 第 | 号 |
| 修了証明書 | | |
| | 氏名 | |
| | 年月日生 | |
| 介護保険法施行令（平成十年政令第四百十二号）第 三条第一項第二号に掲げる研修の課程を修了したことを証 明する。 | | |
| 年月日 | | |
| 学校法人経専学園 理事長 倉田 恵 印 | | |

別紙1 介護職員初任者研修カリキュラム（通信課程用）

| 1. 職務の理解（6時間） | | | | |
|--|-----|---|-----------|--|
| ○到達目標・評価の基準 | | | | |
| 研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 | | | | |
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 | | |
| ① 多様なサービスの理解 | 3時間 | 【講義】 介護保険サービス（居宅、施設）、介護保険外サービス | | |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3時間 | 【演習】 介護保険サービスを提供する現場の実際 介護サービスの提供に至るまでの流れ | | |
| 合計 | 6時間 | | | |
| 2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間） | | | | |
| ○到達目標・評価の基準・ | | | | |
| ・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。 | | | | |
| ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 | | | | |
| ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 | | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | | 1.5時間 | | 【演習】 (1) 人権と尊厳の保持 (2) ICF (3) QOL (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 |
| ② 自立に向けた介護 | | | 7.5時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 自立支援 (2) 介護予防 |
| 合計 | 9時間 | 1.5時間 | 7.5時間 | |

3. 介護の基本（6時間）

○到達目標・評価の基準

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。

介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。

・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。

・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。

・生活支援の場では典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|-------------------------|------|-----------|-----------|--|
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | | | 1 時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 介護環境の特徴の理解 (2) 介護の専門性 (3) 介護に関わる職種 |
| ② 介護職の職業倫理 | | | 1 時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 専門職の倫理の意義 (2) 介護福祉士の倫理 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | | | 1 時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 (3) 感染対策 |
| ④ 介護職の安全 | | 3 時間 | | 【演習】 (1) 介護職の心身の健康管理 (2) 感染予防 |
| 合計 | 6 時間 | 3 時間 | 3 時間 | |

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

○到達目標・評価の基準

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。

- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。

例：税が財源の半分であること、利用者負担割合

- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。

- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。

- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|-----------------------|-----|-----------|-----------|--|
| 介護保険制度 | | 1.5時間 | | 【講義】 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 |
| 医療との連携とリハビリテーション | | | 4時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 医療行為と介護 (2) 訪問看護 (3) 施設における看護と介護の役割・連携 (4) リハビリテーションの理念 |
| 障害者総合支援制度 およびその他制度 | | | 3.5時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 障害者福祉制度の理念 (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 |
| 合計 | 9時間 | 1.5時間 | 7.5時間 | |

5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

○到達目標・評価の基準

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|----------------------|-----|-----------|-----------|---|
| 介護におけるコミュニケーション | | 3時間 | | 【演習】 (1) コミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、 (3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 |
| 介護におけるチームのコミュニケーション（ | | | 3時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告・連絡・相談 (3) コミュニケーションを促す環境 |
| 合計 | 6時間 | 3時間 | 3時間 | |

6. 老化の理解（6時間）

○到達目標・評価の基準

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|--------------------|-----|-----------|-----------|---|
| 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | | 3時間 | | 【演習】 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 |
| 高齢者と健康 | | | 3時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 高齢者の疾病と日常生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 |
| 合計 | 6時間 | 3時間 | 3時間 | |

7. 認知症の理解（6時間）

○到達目標・評価の基準

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。（例）生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。
- ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|------------------------------|-----|-----------|-----------|---|
| 認知症を取り巻く状況 | | | 1時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 認知症ケアの理念 (2) 認知症ケアの視点 |
| 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | | | 1時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 認知症の概念 (2) 認知症の原因疾患とその病態 (3) 原因疾患別ケアのポイント (4) 健康管理 |
| 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（講義・演習） | | 3時間 | | 【演習】 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 |
| 家族への支援（講義） | | | 1時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 家族へのレスパイトケア (2) 家族へのエンパワメント |
| 合計 | 6時間 | 3時間 | 3時間 | |

8. 障害の理解（3時間）

○到達目標・評価の基準

障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

- ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|--------------------------------------|------|-----------|-----------|---|
| 障害の基礎的理解 | | | 0.5 時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 障害の概念とICF (2) 障害者福祉の基本理念 |
| 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | | | 1 時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 身体障害 (2) 知的障害 (3) 精神障害 |
| 家族の心理、かかわり支援の理解 | | 1.5 時間 | | 【講義】 (1) 障害の理解と障害の受容支援 (2) 介護負担の軽減 |
| 合計 | 3 時間 | 1.5 時間 | 1.5 時間 | |

9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

○到達目標・評価の基準

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。

尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。

・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。

・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。

・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。

・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。

・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

| 項目名 基本知識の学習 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|---------------------|------|-----------|-----------|--|
| 介護の基本的な考え方 | | 1 時間 | | 【演習】 （１）理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） （２）法的根拠に基づく介護 |
| 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | | 3 時間 | 1 時間 | 【演習】《添削課題のポイント》 （１）学習と記憶の基礎知識 （２）感情と意欲の基礎知識 （３）自己概念と生きがい （４）老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 |
| 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | | 4 時間 | | 【演習】 （１）人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 （２）骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 （３）中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 （４）自律神経と内部器官に関する基礎知識 |
| 合計 | 9 時間 | 8 時間 | 1 時間 | |

| 項目名 生活支援技術の講 義・演習 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|--|-----|-----------|-----------|---|
| 生活と家事 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 家事と生活の理解、 (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 |
| 快適な居住環境整備 と介護 | | | 4時間 | ≪添削課題ポイント≫ (1) 快適な居住環境に関する基礎知識 (2) 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 |
| 整容に関連したこ ろとからだのしくみ と自立に向けた介護 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 整容に関する基礎知識 (2) 整容の支援技術 |
| 移動・移乗に関連した ころとからだのしく みと自立に向けた 介護 | | 7時間 | 1時間 | 【演習】 ≪添削課題のポイント≫ (1) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する用具とその活用方法 (3) 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 (4) 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (5) 移動と社会参加の留意点 |
| 食事に関連したこ ろとからだのしくみ と自立に向けた介護 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 食事に関する基礎知識 (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援 |
| 入浴、清潔保持に関 連したころとからだ のしくみと自立向 けた介護 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 |

| | | | | |
|-----------------------------|------|------|------|---|
| 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 |
| 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 睡眠に関する基礎知識 (2) 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 (3) 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 |
| 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | | | 6時間 | 《添削課題のポイント》 (1) 終末期に関する基礎知識 (2) 生から死への課程 (3) 「死」に向き合うところの理解 (4) 苦痛の少ない死への支援 |
| 合計 | 54時間 | 43時間 | 11時間 | |

| 項目名 生活支援技術演習 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
|-----------------|------|-----------|-----------|--|
| 介護過程の基礎的理解 | | 6時間 | | 【演習】 (1) 介護過程の目的・意義・展開 (2) 介護過程とチームアプローチ |
| 総合生活支援技術演習 | | 6時間 | | 【演習】 (事例による展開) 移動や食事など生活の各場面における介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた支援の提供を考える。 2つの事例を提示し、ICFの考え方にそって支援の方法・課題を検討する。 |
| 合計 | 12時間 | 12時間 | | |

| <p>10. 振り返り（4時間）</p> <p>○到達目標・評価の基準</p> <p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p> | | | | |
|---|-----------|------------|------------|---|
| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| 振り返り | | 3時間 | | <p>【演習】</p> <p>(1) 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと</p> <p>(2) エビデンスベースの介護についての要点</p> |
| 就業への備えと研修 修了後における継続 的な研修 | | 1時間 | | <p>【講義】</p> <p>(1) 継続的に学ぶべきこと</p> <p>(2) OFF-JT、OJT、プリセプター制度の紹介</p> |
| 合計 | | 4時間 | | |
| <p>11. 評価試験（筆記試験）（1時間）</p> <p>○到達目標・評価の基準</p> <p>カリキュラム全体を通してどの程度理解したか、到達水準を4段階で評価する。</p> <p>A：具体的に説明できるレベル B：だいたいのところを説明できるレベル C：やや説明できるレベル D：知っているレベル</p> | | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学 時間数 | 通信 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| 筆記試験 | 1時間 | 1時間 | | |
| 合計 | 1 時間 | 1時間 | | |
| 総合合計 | 131 時間 | 90.5 時間 | 40.5 時間 | |

添削指導及び面接指導の指導方法書

1 添削指導

(1) 添削指導の進め方

ア 課題は、一括して受講生に配付する（テキスト配付と同時に課題を配付する）。

イ 全科目を 3 回に分け、1 回あたり 1 週間以内の提出期限を設定する。

ウ 提出された課題は、添削者が 1 週間程度で添削し、返却する。

100 点満点中、A = 90 点以上、B = 89 ~ 80 点、C = 79 ~ 70 点、D = 69 ~ 60 点、再 = 59 点以下の 5 段階とし、D 以上を合格点とする。

再の評価を受けた者は、合格点に達するまで、所定の課題の再提出を繰り返す。

エ 受講生からの質問は、事務窓口で受け付け、必要に応じて担当講師に照会する。

(2) 課題

3 回分の課題と模範解答 別紙添付

自社にて作成

2 面接指導

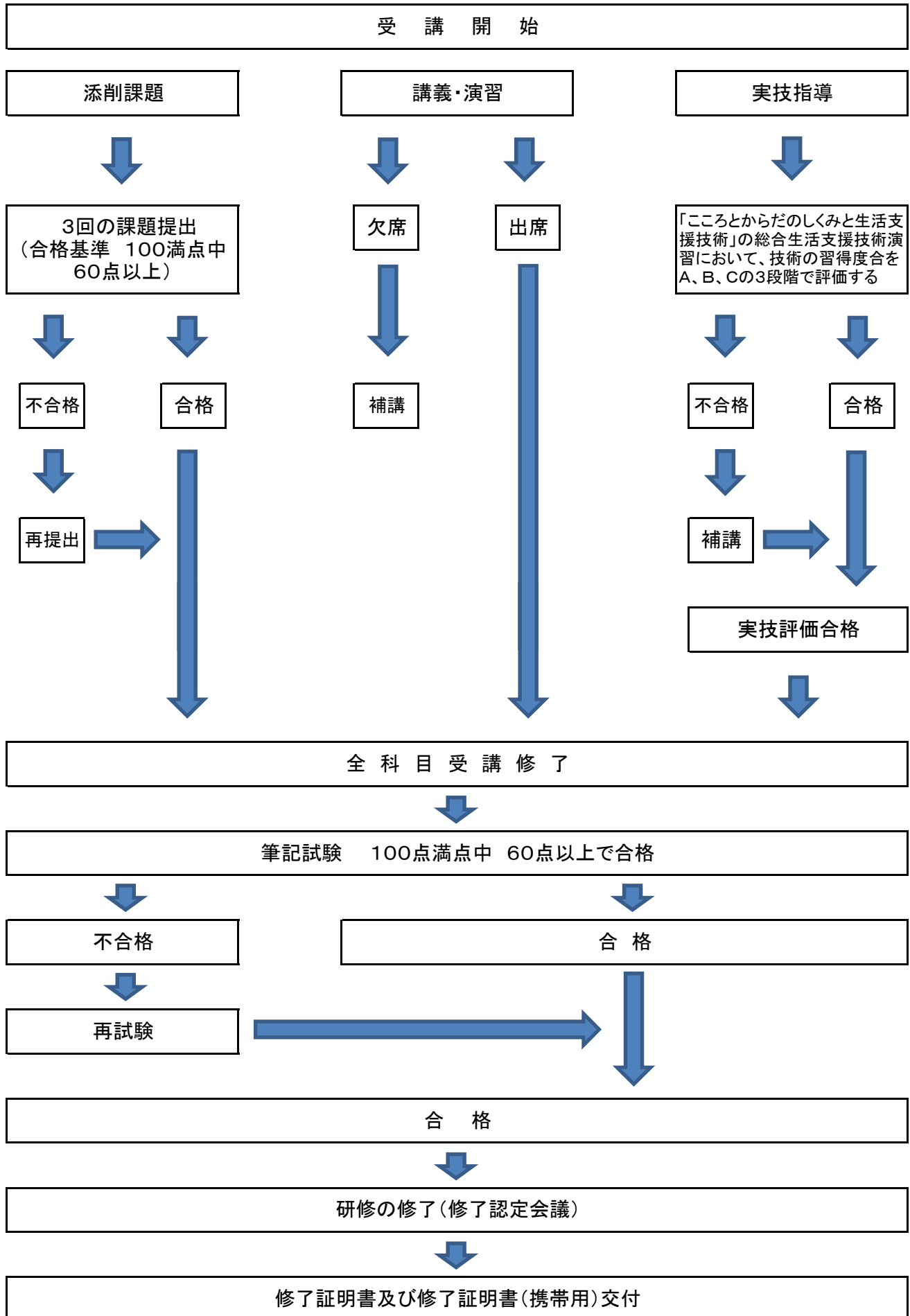
面接指導の講義・演習

| 科目（項目）名 | 内 容 | 研修時間 |
|------------------------------------|---|------|
| 職務の理解 | 多様なサービスの理解 | 3 |
| | 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 |
| 介護における尊厳の保持・自立支援（人権と尊厳を支える介護） | (1) 人権と尊厳の保持 (2) I C F (3) Q O L (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 | 1.5 |
| 介護の基本 (介護職の安全) | (1) 介護職の心身の健康管理 (2) 感染予防 | 3 |
| 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (介護保険制度) | (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 | 1.5 |
| 介護におけるコミュニケーション技術（介護におけるコミュニケーション） | (1) コミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法 (3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 | 3 |
| 老化の理解（老化に伴うこころとからだの変化と日常） | (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 | 3 |
| 認知症の理解（認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活） | (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 | 3 |

| | | |
|--|--|-----|
| 障害の理解（家族の心理、かわり支援の理解） | （１）障害の理解と障害の受容支援 （２）介護負担の軽減 | 1.5 |
| こ こ ろ と か ら だ の し く み と か ら だ の し く み の 基 礎 的 理 解 （ 介 護 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）（２）法的根拠に基づく介護 | 1 |
| ろ と か ら だ の し く み の 基 礎 的 理 解 （ 介 護 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）学習と記憶の基礎知識（２）感情と意欲の基礎知識（３）自己概念と生きがい（４）老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 | 3 |
| ら だ の し く み の 基 礎 的 理 解 （ 介 護 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 （２）骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用（３）中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 （４）自律神経と内部器官に関する基礎知識 | 4 |
| し く み と か ら だ の し く み の 基 礎 的 理 解 （ 介 護 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）家事と生活の理解、 （２）家事援助に関する基礎的知識と生活支援 | 6 |
| と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 （ 整 容 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）整容に関する基礎知識 （２）整容の支援技術 | 6 |
| 支 援 技 術 （ 移 動 ・ 移 乗 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）移動・移乗に関する基礎知識（２）移動・移乗に関する用具とその活用方法（３）利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援（４）移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法（５）移動と社会参加 | 7 |
| 支 援 技 術 （ 食 事 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）食事に関する基礎知識 （２）食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 （３）楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 （４）食事と社会参加の留意点と支援 | 6 |
| 支 援 技 術 （ 入 浴 、 清 潔 保 持 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）入浴、清潔保持に関連した基礎知識 （２）入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 （３）楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 | 6 |
| 支 援 技 術 （ 排 泄 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）排泄に関する基礎知識 （２）排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 （３）爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 | 6 |
| 支 援 技 術 （ 睡 眠 に 関 連 し た こ こ ろ と か ら だ の し く み と 自 立 に 向 け た 介 護 ） | （１）睡眠に関する基礎知識 （２）睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 （３）快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 | 6 |
| 支 援 技 術 （ 介 護 過 程 の 基 礎 的 理 解 ） | （１）介護過程の目的・意義・展開 （２）介護過程とチームアプローチ | 6 |
| 支 援 技 術 （ 総 合 生 活 支 援 技 術 演 習 ） | 2つの事例を提示し、ICFの考え方にそって支援の方法・課題を検討する | 6 |

| | | | |
|------|------|------------------------|---|
| 振り返り | 振り返り | 振り返り | 3 |
| | | 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | 1 |
| 評価試験 | 筆記試験 | | 1 |

介護職員初任者研修 修了認定について



実技演習備品一覧

| 実技内容 | 備品 | 1ベッドあたりの個数 | |
|---------------------|------------------------------------|------------|---|
| ベッドメイク | ベッド、手すり付き | 1 | |
| | ベッド用マット | 2 | |
| | 枕(介護用羽枕) | 1 | |
| | 平シーツ(スマイル フラットシーツ白) | 2 | |
| | 枕カバー | 1 | |
| | 毛布またはタオルケット | 1 | |
| | バスタオル | 1 | |
| | 衣類かご | 1 | |
| | ベッドブラシ | 1 | |
| | 体位交換枕 | 1 | |
| | 移動移乗 | 車いす | 1 |
| 杖 | | 2 | |
| スライディングシートかボード | | 見本のため全体に1 | |
| 4点杖またはウォーカーケイン | | 見本のため全体に1 | |
| 食事・口腔ケア | 食器セット(茶碗、皿、お椀、コップ、箸、スプーン、フォーク、トレイ) | 1 | |
| | 自助具(障害者用スプーンや箸、フォーク) | 見本のため全体に1 | |
| | 吸いのみ | 2 | |
| | おしぼりとおしぼり受け | 1 | |
| | 割り箸とストロー、紙コップ | 受講生数 | |
| | トロミ剤(商品名「トロメイク」「トロミーナ」「トロメリン」等) | 受講生数 | |
| | ハサミ(トロミ剤の袋を開けるため) | 1 | |
| | ガーグルベースン(受水器) | 2 | |
| | 口腔ブラシ、舌ブラシ | 見本のため全体に1 | |
| | スポンジブラシ | 受講生数 | |
| | ディスプレイ手袋 | 受講生数 | |
| 整容・更衣着脱 | ねまき用浴衣 | 1 | |
| | 前開きパジャマ上下 | 見本のため全体に1 | |
| | かぶりの服(トレーナー) | 見本のため全体に1 | |
| | 爪切り | 1 | |
| | フェイスタオル | 1 | |
| | ヘアブラシ | 1 | |
| | 手鏡 | 1 | |
| | 安全カミソリ | 1 | |
| | 排泄 | ポータブルトイレ | 1 |
| | | バスタオル | 1 |
| | | ハンドタオル | 1 |
| トイレットペーパー | | 1 | |
| 防水シーツ | | 1 | |
| 紙おむつ各サイズ | | 見本のため全体に1 | |
| 布おむつとおむつカバーセット | | 見本のため全体に1 | |
| 紙おむつ(LかLL、交換練習用) | | 2 | |
| 尿取りパット 男用 | | 2 | |
| 尿取りパット 女用 | | 2 | |
| リハビリパンツ | | 2 | |
| ディスプレイ手袋 | | 見本のため全体に1 | |
| ズボン(更衣着脱のパジャマズボン共有) | | 共有 | |
| 男性用尿器 | | 1 | |
| 女性用尿器 | | 1 | |
| 差し込み便器 | | 1 | |
| 入浴・手浴・足浴 | 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 | | |
| | バスタオル | 2 | |
| | ビニール袋(ごみ袋の大) | 1 | |
| | 洗濯バサミ(大) | 2 | |
| | 輪ゴム | 4 | |
| | 綿棒 | 2 | |
| | 耳栓用脱脂綿(綿球) | 2 | |
| | シャンプーリンス | 1 | |
| | ドライシャンプー | 1 | |
| | フェイスタオル | 1 | |
| | 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル | 1 | |
| | ドライヤー | 1 | |
| | バケツ(大)15l | 2 | |
| | 【手浴・足浴用】 | 各ベッドに必要な数 | |
| | 手桶 | 2 | |
| | 洗面器(小) | 2 | |
| | 洗面器(大) 足浴用たらいとして使用 | 2 | |
| | レジャーシートか防水マット | 1 | |
| | 固形石鹸 | 1 | |
| 沐浴剤(「スキナベープ」商品名) | 1 | | |
| ビニール袋(ごみ袋の大) | 1 | | |

学生個人が用意するものもあります。

着替えの衣類や手浴足浴の時のフェイスタオル、食事支援で使う簡単な食べ物類

講師調書

講師調書番号 1

| | | | | |
|----------------|--------|--|-------------|----------------|
| 氏名 | | 末岡 陽子 | | |
| 生年月日 | | 昭和48年4月2日 | 性別 | 女 |
| 最終学歴 | | 専門学校日本福祉学院ケアワーカーコース | | |
| 担当科目(項目) | | ころとからだのしくみと生活支援技術(⑥整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) | | |
| 講師 資格 要件 | 職 歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 医) 社団恵和会宮の森病院 | 看護助手(介護職) | H6年4月~H11年7月 |
| | | 同院老人保健施設えん | 介護職 | H11年8月~H11年10月 |
| | | ヒューマン・アカデミー | 福祉専攻講師 | H12年7月~H16年3月 |
| | | 日本福祉学院 | ホームヘルパー養成講師 | H14年5月~H15年3月 |
| | | サンシャイン総合学園 | ホームヘルパー養成講師 | H16年4月~現在 |
| | | 学校法人経専学園 | 非常勤講師(介護概論) | H18年4月~現在 |
| | | 同学園 | 介護職員初任者研修講師 | H28年8月~ |
| | | | | |
| | | | | |
| 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 | |
| | 介護福祉士 | 財) 社会福祉振興試験センター | H6年3月 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 特記事項 | | 介護過程Ⅲにおける修了講習会 介護職員講習会 H24年11月修了 | | |

講師調書

講師調書番号 2

| | | | | |
|----------------|---------------|--|-----------|---------------|
| 氏名 | | 宮崎 博一 | | |
| 生年月日 | | 昭和51年 6月 1日 | 性別 | 男 |
| 最終学歴 | | 北海道保育総合専門学校・浪速短期大学卒業 | | |
| 担当科目(項目) | | 障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解 / ころとからだのしくみと生活支援技術(⑦移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 | | |
| 講師 資格 要件 | 職 歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 社会福祉法人 小樽四葉学園 | 重度知的障害者支援 | H10年4月～H15年3月 |
| | 社会福祉法人 榆の会 | 重症心身障害者支援 | H15年8月～現在 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 | |
| | 介護福祉士 | 財)社会福祉振興試験センター | H18年3月31日 | |
| | 保育士 | 指定保育士養成施設 | H18年3月31日 | |
| | | | | |
| 特記事項 | | | | |

講師調書

講師調書番号

3

| | | | | |
|----------------|---|---------------|------------------|----------------|
| 氏名 | 立成 みゆき | | | |
| 生年月日 | 昭和39年7月11日 | 性別 | 女 | |
| 最終学歴 | 福島県立湖南高等学校 | | | |
| 担当科目(項目) | 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)/介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)/介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) | | | |
| 講師 資格 要件 | 職 歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | (株)ほくおうサービス | 訪問介護業務 | H16年3月～H18年8月 |
| | | 勤医協北在宅総合センター | 訪問介護業務 | H18年8月～H21年9月 |
| | | (株)アクティブ・ケア | 通所介護業務 | H21年9月～H24年1月 |
| | | 医療法人北昂会ひびき | ケアプラン作成相談業務 | H23年8月～H23年12月 |
| | | 札幌市中央区役所 | 保健福祉課認定調査員 | H24年4月～H24年7月 |
| | | (株)ライフケアサービス | 介護業務兼相談業務 | H25年3月～H25年9月 |
| | | グッドフェイスアカデミー | 非常勤講師 | H26年1月～現在 |
| | デイサービスセンター マカオ | 通所介護業務 | H27年5月～現在 | |
| | | | | |
| | 資 格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| | | ホームヘルパー2級 | 社会教育総合研究所 | 平成15年10月14日 |
| | | 全身性障害者移動介護従業者 | 株式会社日本福祉介護教育センター | 平成16年11月6日 |
| | | 介護福祉士 | 厚生労働省 | 平成20年4月9日 |
| 介護支援専門員 | | 北海道 | 平成23年2月24日 | |
| 実務者研修教員講習会 | | 株式会社サンシャイン | 平成28年2月20日 | |
| 特記事項 | | | | |

講師調書

講師調書番号

4

| | | | | |
|----------------|--|--------------|----------------------|----------------|
| 氏名 | 吉江 幸子 | | | |
| 生年月日 | 昭和37年2月3日 | 性別 | 女 | |
| 最終学歴 | 札幌国際大学人文学部心理学科 | | | |
| 担当科目(項目) | 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)ノ介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)ノ介護の基本(①介護職の役割、専門性とは職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)ノ介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)ノ介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)ノ老化の理解(①老化に伴うこととからだの変化と日常)ノ認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 ④家族への支援)ノ障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解)ノこととからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 ③介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したこととからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)ノ振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修) | | | |
| 講師 資格 要件 | 職 歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 駒澤大学看護福祉専門学校 | 教務主任保育福祉系専任教員 | H3年4月～H8年9月 |
| | | 専門学校日本福祉学院 | 就職相談業務及び介護員養成研修非常勤講師 | H13年4月～H20年10月 |
| | | 有限会社ELP | 訪問介護業務 | H22年4月～H24年5月 |
| | | 日本福祉介護教育センター | 非常勤講師 | H23年4月～現在 |
| | | 株式会社福祉ケア | 通所介護業務 | H24年6月～H27年5月 |
| | | 札幌新陽高校 | 非常勤講師 | H25年7月～現在 |
| | | 札幌国際大学 | 非常勤講師 | H26年4月～現在 |
| | | 日本エナジー社会福祉学院 | 非常勤講師 | H27年12月～現在 |
| | | サンシャイン総合学園 | 非常勤講師 | H27年12月～現在 |
| | 道都大学 | 社会福祉学部専任講師 | H28年4月～現在 | |
| | 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| | | 介護福祉士 | 厚生労働省 | 平成13年3月22日 |
| | | 保育士 | 北海道 | 平成15年11月29日 |
| 実務者研修教員講習会 | | 株式会社サンシャイン | 平成28年2月20日 | |
| 特記事項 | 保育士：指定保育士養成施設卒業 昭和60年3月 札幌国際大学担当科目：障がい者福祉（高齢・障害者の現状理解と支援に関する講義） | | | |

| | | | | |
|----------|--|--------------|-------------|-----------------|
| 氏名 | 千葉 安代 | | | |
| 生年月日 | 昭和45年1月22日 | 性別 | 女 | |
| 最終学歴 | 放送大学教養部（生活と福祉専攻） | | | |
| 担当科目（項目） | 職務の理解（①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解）／介護における尊厳の保持・自立支援（①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護）／介護の基本（①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全）／介護・福祉サービスの理解と医療との連携（①介護保険制度 ②医療との連携とリハビリテーション ③障害者総合支援制度およびその他制度）／介護におけるコミュニケーション技術（①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション）／老化の理解（①老化に伴うこととからだの変化と日常 ②高齢者と健康）／認知症の理解（①認知症を取り巻く状況 ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 ③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 ④家族への支援）／障害の理解（①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識 ③家族の心理、かわり支援の理解）／こととからだのしくみと生活支援技術（①介護の基本的な考え方 ②介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 ③介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 | | | |
| 講師資格要件 | 職歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 北海道大学医学部付属病院 | 看護業務 | H3年8月～H7年3月 |
| | | 社会福祉法人南静会 | 老健看護業務 | H7年4月～H9年3月 |
| | | 社会福祉法人南静会 | 訪問看護業務 | H9年4月～H11年6月 |
| | | 医療法人溪仁会 | 在宅ケア事業部看護業務 | H11年7月～H12年1月 |
| | | 専門学校日本福祉学院 | 介護福祉士養成専任教員 | H11年12月～H17年3月 |
| | | 社会福祉法人溪仁会 | 通所介護看護業務 | H17年9月～H18年1月 |
| | | 名寄市立大学 | 保健福祉学部専任講師 | H18年4月～H21年9月 |
| | | 医療法人社団夕張希望の杜 | 老健看護業務 | H21年10月～H22年12月 |
| | | 名寄市立大学 | 保健福祉学部非常勤講師 | H21年10月～現在 |
| | | 社会福祉法人ノテ福祉会 | 特養看護業務 | H23年3月～現在 |
| | | 専門学校日本福祉学院 | 非常勤講師 | H23年3月～現在 |
| | 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| 看護師 | | 厚生労働省 | 平成3年5月13日 | |
| 保健師 | | 厚生労働省 | 平成4年5月6日 | |
| 特記事項 | 名寄市立大学担当科目：介護概論 専門学校日本福祉学院担当科目：発達と老化の理解・認知症の理解・障害の理解・医療行為と介護・ICF・介護実習指導 訪問看護：介護、在宅福祉サービス連携活動 | | | |

講 師 調 書

講師調書番号 6

| | | | | |
|-----------|--|---------------------|---------|---------------|
| 氏 名 | 八木 一恵 | | | |
| 生年月日 | 昭和 4 2 年 1 月 2 1 日 | 性 別 | 女 | |
| 最終学歴 | 北海道教育大学教育学部函館分校養護教諭特別別科 | | | |
| 担当科目 (項目) | 介護における尊厳の保持・自立支援 (①人権と尊厳を支える介護 / 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (①介護保険制度) / 介護の基本 (④介護職の安全) / 老化の理解 (①老化に伴うところとからだの変化と日常) / 認知症の理解 (③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活) / ところとからだのしくみと生活支援技術 (③介護に関するからだのしくみの基礎的理解) | | | |
| 講師資格要件 | 職歴 | 名 称 | 業 務 内 容 | 従 事 期 間 |
| | | 北海道教育大学保健管理センター旭川分室 | 看護業務 | H2年4月～H5年3月 |
| | | 札幌福祉専門学校 | 非常勤講師 | H11年9月～H12年3月 |
| | | 東京アカデミー看護医療予備校 | 非常勤講師 | H13年7月～現在 |
| | | 日本福祉介護教育センター | 非常勤講師 | H23年4月～現在 |
| | | 経専医療事務薬業専門学校 | 非常勤講師 | H23年10月～現在 |
| | | あずみの福祉カレッジ | 非常勤講師 | H27年12月～現在 |
| | 資格 | 名 称 | 取 得 機 関 | 取 得 年 月 日 |
| | | 看護師 | 厚生労働省 | 平成3年8月31日 |
| | | | | |
| 特記事項 | 札幌福祉専門学校担当科目：介護概論 経専医療事務薬業専門学校担当科目：看護学・医療と介護・解剖生理学 | | | |

講師調書

講師調書番号 7

| | | | | |
|----------|---|-------------|------------|---------------|
| 氏名 | 若崎 一恵 | | | |
| 生年月日 | 昭和37年9月1日 | 性別 | 女 | |
| 最終学歴 | 北見藤女子高等学校 | | | |
| 担当科目(項目) | 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)／介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)／介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)／介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)／介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)／老化の理解(①老化に伴うところとからだの変化と日常)／認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 ④家族への支援)／障害の理解(③家族の心理、かわり支援の理解)／ところとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するところのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) | | | |
| 講師資格要 | 職歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 1ベネッセくらら山鼻 | 介護業務 | H15年8月～H17年3月 |
| | | 社会福祉法人札幌慈啓会 | 介護業務 | H17年4月～H24年6月 |
| | | エルム共育学院 | 非常勤講師 | H25年7月～現在 |
| | | 社会福祉法人ノテ福祉会 | 介護業務 | H25年12月～現在 |
| | 日本福祉介護教育センター | 非常勤講師 | H27年12月～現在 | |
| | 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| | | 介護福祉士 | 厚生労働省 | 平成20年4月14日 |
| | | 介護教員講習会 | 株式会社サンシャイン | 平成25年8月12日 |
| 特記事項 | | | | |

講 師 調 書

講師調書番号

8

| | | | | | |
|-----------|--|------------|------------|---------------|--|
| 氏 名 | 大石 啓介 | | | | |
| 生年月日 | 昭和 6 0 年 2 月 2 7 日 | 性 別 | 男 | | |
| 最終学歴 | 札幌医学技術福祉専門学校 介護福祉士科 | | | | |
| 担当科目 (項目) | 職務の理解 (①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解) / 介護における尊厳の保持・自立支援 (①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護) / 介護の基本 (①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全) / 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度) / 介護におけるコミュニケーション技術 (①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション) / 老化の理解 (①老化に伴うところとからだの変化と日常) / 認知症の理解 (①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 ④家族への支援) / 障害の理解 (③家族の心理、かかわり支援の理解) / ところとからだのしくみと生活支援技術 (①介護の基本的な考え方 ②介護に関するところのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) / 振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修) | | | | |
| 講師資格要 | 職歴 | 名 称 | 業務内容 | 従事期間 | |
| | | 社会福祉法人すばる | 介護業務 | H17年3月～H18年3月 | |
| | | 医療法人英生会 | 介護業務 | H18年3月～現在 | |
| | 資格 | 医療法人英生会英生塾 | 非常勤講師 | H27年4月～現在 | |
| | | 名 称 | 取得機関 | 取得年月日 | |
| | | 介護福祉士 | 厚生労働省 | 平成17年3月31日 | |
| | | 実務者研修教員講習会 | 株式会社サンシャイン | 平成28年2月20日 | |
| 特記事項 | | | | | |

講 師 調 書

講師調書番号 9

| | | | | |
|-----------|-----------|---|------------------|------------------|
| 氏 名 | | 神内 秀之介 | | |
| 生年月日 | | 昭和47年10月24日 | 性別 | 男 |
| 最終学歴 | | 北海道大学公共政策大学院 | | |
| 担当科目（項目） | | 職務の理解（①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解）／介護における尊厳の保持・自立支援（①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護）／介護の基本（①介護職の役割、専門性とは職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全）／こころとからだのしくみと生活援助技術（⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護／振り返り（①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修） | | |
| 講師資格要件 | 職歴 | 名 称 | 業 務 内 容 | 従 事 期 間 |
| | | 西円山敬樹園 | 管理者 | 平成14年9月～平成19年3月 |
| | | ホームヘルプステーション | 訪問介護員 | |
| | | 札幌国際大学 | 非常勤講師 | 平成14年9月～平成22年3月 |
| | | 指定居宅介護支援事業所 | | 平成15年12月～平成24年6月 |
| | | 西円山敬樹園 | 介護支援専門員 | |
| | | ケアプランセンター | 管理者 | 平成24年7月～平成24年12月 |
| | こころまるやま | 介護支援専門員 | 平成27年4月～ | |
| | 相談室こころていね | 障がい者相談支援事業相談員 | 平成25年1月～平成27年3月 | |
| | 資格 | 名 称 | 取 得 機 関 | 取 得 年 月 日 |
| | | 介護支援専門員 | 北海道 | 平成15年3月 |
| | | 社会福祉士 | 財) 社会福祉振興・試験センター | 平成15年4月 |
| | | 介護福祉士 | 財) 社会福祉振興・試験センター | 平成16年4月 |
| | | 精神保健福祉士 | 財) 社会福祉振興・試験センター | 平成17年5月 |
| 主任介護支援専門員 | | 北海道 | 平成25年3月 | |
| 特記事項 | | | | |

講師調書

講師調書番号 10

| | | | | |
|----------------|---|-----------------------------|----------|---------------------|
| 氏名 | 荒瀬 崇光 | | | |
| 生年月日 | 1980年11月4日 | 性別 | 男 | |
| 最終学歴 | 東北福祉大学卒業 | | | |
| 担当科目(項目) | <p>職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)／介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)／介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)／介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)／介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)／老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常)／認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援)／障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解)／こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)／振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修終了後における継続的な研修)</p> | | | |
| 講師 資格 要件 | 職 歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 社会福祉法人溪仁会 あおば デイサービスセンター | 介護職員 | 平成17年5月～ 平成24年3月 |
| | | 社会福祉法人溪仁会 豊平溪 仁会デイサービス | 相談員兼介護職員 | 平成24年4月～ 平成25年7月 |
| | | 社会福祉法人溪仁会 円山溪 仁会デイサービス | 管理者兼相談員 | 平成25年8月～ |
| | 資 格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| | | ヘルパー2級 | | 2005年3月13日 |
| | | 介護福祉士 | | 2009年4月17日 |
| | | 社会福祉士 | | 2014年4月11日 |
| | | 介護支援専門員 | | 2014年7月4日 |
| | 特記事項 | | | |

講師調書

講師調書番号 11

| | | | | |
|----------|----|---|---------------|---------------|
| 氏名 | | 長澤 哲幸 | | |
| 生年月日 | | 昭和49年3月9日 | 性別 | 男・女 |
| 最終学歴 | | 短期大学卒業 | | |
| 担当科目(項目) | | 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解) / 介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護) / 介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全) / ところとからだのしくみと生活援助技術(⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 / 振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修) | | |
| 講師資格要件 | 職歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 老人保健施設月形緑苑 | 介護福祉士 | H6年4月～H12年3月 |
| | | 介護老人保健施設 コミュニティホーム美唄 | 介護福祉士 | H12年4月～H14年4月 |
| | | 社会福祉法人湊仁会(南静会) 居宅介護支援事業所すまいる | 介護支援専門員 | H14年4月～H27年5月 |
| | | 社会福祉法人湊仁会 ケアプランセンター ところまるやま | 介護支援専門員 | H27年6月～ |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| | | 社会福祉士 | 社会福祉振興・試験センター | H23年3月25日 |
| | | 主任介護支援専門員 | 北海道総合研究調査会 | H21年12月11日 |
| | | 住環境コーディネーター | 東京商工会議所検定試験情報 | H19年7月8日 |
| 介護支援専門員 | | 社会福祉振興・試験センター | H13年3月13日 | |
| 介護福祉士 | | 社会福祉振興・試験センター | H10年5月1日 | |
| 特記事項 | | | | |

講師調書

講師調書番号 12

| | | | | |
|----------|---|----------------------|---|--------------------------|
| 氏名 | 加藤 健一 | | | |
| 生年月日 | 昭和44年11月25日 | 性別 | <input checked="" type="checkbox"/> 男・女 | |
| 最終学歴 | 北海道保育総合専門学校、大阪浪速短期大学 | | | |
| 担当科目(項目) | 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解) / 介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護) / 介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全) / 心とからだのしくみと生活援助技術(⑫死にゆく人に関連した心とからだのしくみと終末期介護 / 振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修) | | | |
| 講師資格要件 | 職歴 | 名称 | 業務内容 | 従事期間 |
| | | 特別養護老人ホーム 緑が丘あさひ園 | 介助員、生活相談員 | 平成5年4月1日～ 平成11年3月31日 |
| | | 特別養護老人ホーム 西円山敬樹園 | 生活相談員 兼 介護支援専門員 | 平成11年5月1日～ 平成28年3月31日 |
| | | コミュニティホーム 白石 | 介護支援専門員 | 平成28年4月1日～ |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 資格 | 名称 | 取得機関 | 取得年月日 |
| 介護福祉士 | | 社会福祉振興・試験センター | 平成9年9月19日 | |
| 介護支援専門員 | | 北海道 | 平成12年4月1日 | |
| 社会福祉士 | | 社会福祉振興・試験センター | 平成18年4月14日 | |
| | | | | |
| | | | | |
| 特記事項 | | | | |